

C—42 衣服の設計に関する基礎的研究（第1報）
——長野県における幼児から成人までの身体
長径項目の計測結果——

信州大教育 小野 貞子
西沢 直
○関川 信子

1. 衣服設計の基礎資料を得ることを目的として、身体計測による基礎調査を行なったので、今回は主として長径項目を用いて幼児から成人までの男女の体型について年齢的特徴の二、三を考察した。

2. 被検者は、長野県内の4歳～29歳までの健康な男女合計1830名で、計測は1966年、1967年の7～8月に実施した。研究項目は、身長・膝高・胴高・股高・袖丈・背丈・総丈の7項目である。

3. 主な成果はつぎのようである。

a) 計測値について——7項目いずれも男女とも4歳～13歳までは加齢に伴い漸増するが、全年齢を通してみると、年齢的に有意差の顕著な時期および男女別に有意差の顕著な時期のあることが認められる。

b) 7項目を総合した各年齢の体型について——成人体型に急速に近づくのは男子では15歳あたり、女子では13歳あたりからである。

c) 身長に対する相関について——総丈(0.9) 胴高(0.8)、膝高、股高、袖丈の5項目はいずれも0.7以上の高い相関を示しているが、背丈についてはやや低い。